

## 菊池隆さん ⑦

「仮設のまち」のモデルと位置づけられた釜石市の平田第6仮設団地では、様々な試みが行われた。その一つが地上波デジタル放送の空きチャンネルを活用した、団地内でのみ視聴できる「コミュニティ」放送だ。

2013年4月、菊池隆さんは、自治会事務局長の仕事と並行して「HCH平田チャンネル」の番組制作も担うことになった。取材、写真と動画の撮影・編集を、妻のみつよさんと始めた。映像をパソコンに取り込み、専用ソフトで配信データに変換したものを、超小型ユニットで送信する仕組みだ。

歌や踊りなど団地で催されたイ

## 団地のみ放送のテレビ局

ベント、桜並木の風景など手近なものから始め、遠野市宮守町のめがね橋を走るSL銀河や宮城県の花の名所など、市外・県外にも取材にでかけた。市内の川に帰ってきたサケを追ったドキュメンタリーなど、時間をかけた力作も放送した。

高齢者が多い団地の入居者は、外出する機会が少ないだろうとの配慮だった。カメラなど機材は釜石市から提供を受けたが、取材費用はすべて自腹。それでも「あの番組よかったよ」と声をかけられると、うれしかった。毎月2回番組を更新し、17年4月まで329本を制作した。

今は撮りためた写真をつないだ「平田第6仮設団地の記憶」を放送している。

(斎藤徹)